



ちばさぽ通信

編集・発行：千葉市民活動支援センター
 住所：〒260-0013 千葉市中央区中央2-5-1
 千葉中央ツインビル2号館9階
 電話：043-227-3081 FAX：043-227-3082
 Mail：info@chiba-npo.net
 Web：http://chiba-npo.net

《まちなかボランティア養成講座》が始まります

オリンピック・パラリンピック開催に向けて、ボランティアへの関心とニーズが高まる中、「ちばさぽ」ならではの講座、「まちなかボランティア養成講座」が、今年度からスタートします。特定の知識や高い語学力はなくても「来街者に親切にしたい」という気持を持つ人は少なくないはず。しかしこの隠れた親切心を表に出すには、ちょっとした勇気が必要です。こうした「潜在的ボランティア」の背中を押して見える化し、千葉市全体の「もてなし度」をアップさせるのが、この講座の狙いです。



外国人でも日本人でも、知らない街で親切にされるのは嬉しいもの。来街者を「ようこそ」と迎える心を、きちんと伝えるキッカケを作りませんか。講義1回と実習2回、都合の良い日を選んでの参加が可能です。講座を修了すると「まちなかボランティア」として認定され、修了証やバッジ等が受取れます。

講義

外国人、障害者、他県からの来街者など多様な相手に対し、せっかくの親切心が「大きなお世話」にならないよう、ボランティアの基本的な心構えと共に、対象別の基礎知識やコミュニケーションのノウハウ、対応の心構えを学びます。また千葉に関する基本的な情報源の探し方などをコンパクトに解説します。

【日程】2017年7月29日(土)・9月9日(土)・11月11日(土)
 2018年2月17日(土)

※どの日も講義の内容は同じです。都合の良い日を選んで受講してください。

【時間】13:30～16:30(全日程共通)

【会場】千葉市民活動支援センター会議室

(千葉市中央区中央2-5-1千葉中央ツインビル2号館9階)

【定員】各回とも20名

【講義内容】

- 1 ボランティアの基礎知識
- 2 外国からの来街者(インバウンド)の見通し
- 3 コミュニケーションのノウハウ
- 4 障害者とのコミュニケーション

- 5 千葉市の成り立ち
- 6 千葉市の観光資源
- 7 情報の入手方法と最新コミュニケーションツール

【主な講師】

高山 功一	一般社団法人千葉市身体障害者連合会会長 千葉市身体障害者福祉会会長
吉谷地 裕	公益財団法人日本交通公社 観光地域研究部主任研究員
小亀さおり	千葉市観光プロモーション課海外集客班 元国際線CA 前千葉シティ5BEACHエンジェルズ千葉市観光PR大使
原田 正隆	千葉市民活動支援センター センター長 (株)まちづくり商会 代表取締役
椋浦 敏彰	千葉市民活動支援センター 事務局長 (特非) まちづくり千葉 専務理事、千葉大学非常勤講師
山本 俊子	千葉市民活動支援センター指定管理者共同事業体代表 コピーライター

実習

千葉市で開催されるイベント会場内で、案内を体験する機会を作ります。実際に声を掛けたり、質問に答える体験をしてみましょう。実習日は年に6回予定しています。受講者は都合に合う日程で2回以上実習を受けてください。今年度中に参加できない場合でも次年度以降に実習することができます。

ミニコラム

ちばさぽの風 vol.20

ボランティアをしてライブに行こう!

ある日センターに、行政の仲介で興味深い相談が寄せられました。一言で言うと、「ボランティアの受入先を紹介してほしい」というものです。え、そのどこが興味深いのかとほとんどの方は思うでしょう。少し補足をすると、「ボランティア活動をした人にライブの招待券をプレゼントする、という企画があり、そのボランティアの受入先を探している」といった相談(依頼)でした。

この説明だけだと、「エンジンをぶら下げてボランティアをさせる企画」と思われるかもしれませんが。私も初めは、自発性というボランティアの原則に反するので、違和感のようなものを感じました。しかし依頼者の説明を聞くにつれ、ボランティアの経験がない人にきっかけを与えられるという点は悪くないし、これを団体にとって活動のPRの機

会ととらえ、利用させてもらえばいいのでは?と思うようになってきました。

ちなみにこの企画は2005年にアメリカで始まり、以後世界10ヶ国で開催されているとのこと。日本では2014年から福島県で開催されてきましたが、今年はライブの会場が幕張メッセに変更になったので、千葉市でのボランティア受入先を探すことになったのだそうです。また、ライブには複数のメジャーなアーティストが出演しますが、開催費用は特別協賛の企業が負担しているようです。

さて、この相談に対してセンターでは、依頼者の求める要件(受入人数や活動時間など)に合いそうないくつかの団体に個別に声掛けをし、関心を示した団体を紹介する、という形で協力をしました。この通信が発行される頃には、いくつかの団体が受入先に確定しているのではないかと思います。もし来年度もこの依頼があったら、今年の経験を踏まえて、例えば説明会を開催して受入先を募集する、といったことができないか考えています。(原)

【参考】<https://rockcorps.yahoo.co.jp/2017/>